

### 53. <うちの豪雨対策>

先月、九州北部で局地的に記録的な豪雨があり、7月にも梅雨前線の停滞により長野県岡谷市、諏訪市などを中心に死者不明者 11 名、床上浸水 1,043 棟などの豪雨被害が発生したり、九州南部に豪雨をもたらして、大きな被害が生じています。

気象庁によると、集中豪雨の発生回数は 10 年前に比べて倍増しており、最近では、平成 11 年の福岡市、平成 12 年の名古屋市、平成 15 年の福岡県、平成 16 年の福井市、平成 17 年の東京など記録的な集中豪雨により甚大な浸水被害が各地で発生し、水害の犠牲者数も、近年、毎年 3 けたに及んでいます。

この中で、平成 12 年の東海豪雨では平成 12 年 9 月 11 日から 12 日にかけて、秋雨前線と台風により統計開始以来の記録的な大雨(名古屋地方気象台発表:日最大 1 時間降水量 97.0mm、最大日降水量 428.0mm、総降水量 566.5mm)となり、新川の堤防決壊、河川からの越水、内水などにより各地で浸水が発生し、その浸水面積は市域の約 36%におよびました。(床上浸水 11,142 棟、床下浸水 23,291 棟:名古屋市)

私の家もこの床上浸水家屋の一軒で、畳を上げたり、敷地内に滞水する雨水のくみ出し等により夜中の作業が続いたようです。続いたようと言いましたのは、下水道事業に携わる公務員としての宿命ですが、非常配備の呼び出しがかかり、登庁しなければならず、家のことは家族に任さざるを得なかったためです。呼び出しがかかった時には我が家の前の道路は冠水し始めており、翌日が本省へ出張だったため、鞆、スーツ、靴等をビニールごみ袋に入れて持ち、レインウェアを着て、長靴を履き家を出ました。この時、既に広範囲に道路冠水し始めているようで、タクシーを拾って登庁しようとしたのですが車がほとんど通らず、この時点で今回の雨はこれまでの雨と違って大きな被害が出そうだなと感じました。


職場に着くと徐々に被害が大きくなり、午前 0 時には全員参集にまでなり、被害の拡大の情報がどんどん入ってくるようになり、前記のような状況となりました。

このように、近年頻発する下水道施設の整備水準を大きく超える集中豪雨に対し、平成 17 年 7 月の浸水対策小委員会の提言では時間と財政的制約の中で緊急かつ効率的に浸水被害の軽減を図るためには、これまでの施策の転換が必要とされ、ハード対策の着実な推進とソフト対策の強化、自助の推進を挙げています。行政サイドの公助によるハード対策の強化だけでは財政上の問題や整備に要する時間などを考えると、一朝一夕には浸水被害の軽減を図ることは難しいと思われます。このため、住民が主体的に行動を起こすこと、いわゆる自助が必要不可欠となってきます。

自助のハード対策としては、建物の耐水化、地下施設等の止水板の設置・耐水化、浸水時の土のう設置、地下式駐車場の対応策などがあり、ソフト対策としては、雨水ます清掃、自主避難訓練、非常時持ち出し品の確保などがあり、私たちも自らの対応により被害を最小にするよう心がけなければいけません。最後に、この自助によるハード対策の一例として、我が家が行っている雨対策を紹介します。

< 稲毛 克俊 >

※No. 59 号(2006/10/6)に掲載

<p>1. 建物の耐水化</p> <p>建物を耐水化して床上浸水を防ぐため、我が家では敷地全周をブロック塀で囲んでいます。また、玄関、通路、車庫の出入口などは2. の対策を行っています。(写真省略)</p>	
<p>2. 玄関などの出入口への対策</p>  	<p>①玄関のマウンドアップ 道路冠水を防ぐため、40c m ほど道路面から階段状に嵩上げしています。東海豪雨の時にはこの上に土のうを積み、何とか道路からの越流を防ぎことができました。</p> <p>②駐車場出入り口の止水板設置・耐水化 駐車場からの出入口には写真のようにブロックに止水版が設置できるようにして、道路が冠水しても宅地内に水が入らないようにしています。</p>
<p>3. 浸水水への対策</p>    	<p>①下水本管からの逆流防止 大雨時には下水道本管の能力が不足し、本管から宅内に下水が逆流し、敷地内の取り付け桝から溢れてくる恐れがあるので、それを防止するため逆流防止弁を取り付けているものです。</p> <p>②水中ポンプの設置 上記の措置により、道路あるいは下水本管からの雨水の浸入は防ぐことができますが、雨が降り続けると敷地内に降った雨が流れるところがありません。このため、敷地内の雨を排水するため水中ポンプが用意してあります。 これは、東海豪雨後に購入したり、譲ってもらったもので、まだ一度も使っていません。 こういうものは使わないに越したことはありませんが…。 電動ですので停電時には使用できませんが、停電になる確率は最近低いということで発電機までは準備していません。</p> <p>③土のうの準備 玄関のマウンドアップ部を超える可能性のある場合や止水板を固定するために設置し、耐水化を図るために敷地内に常時、用意されています。</p>